

がんを知ろう！
～Cure and Care～

がんのリハビリってなんだろう



小田原市立病院リハビリテーション室
理学療法士 佐藤隆一

Odawara Municipal Hospital





⚠️ この人は嘘をついています。

がんは自分が気付かないうちに進行しています。
がん検診に行って、早期発見を。



9月、がん征圧月間
全国大会 2017.9.8 金沢市

がんと共存する時代へ

- 1) がんは日本人の死亡原因の**第1位**である。
- 2) 年間死亡者数の**約3分の1**を占める。
- 3) がん患者の罹患者数は年々増加し、**2015年には90万人**にと推定されている。
- 4) がん患者の死亡率は**減少傾向**で**半数以上が治る**時代へ。
- 5) がん生存者は2003年の298万人から**2015年の533万人**に達すると予測されている。



不治の病から共存する時代へ



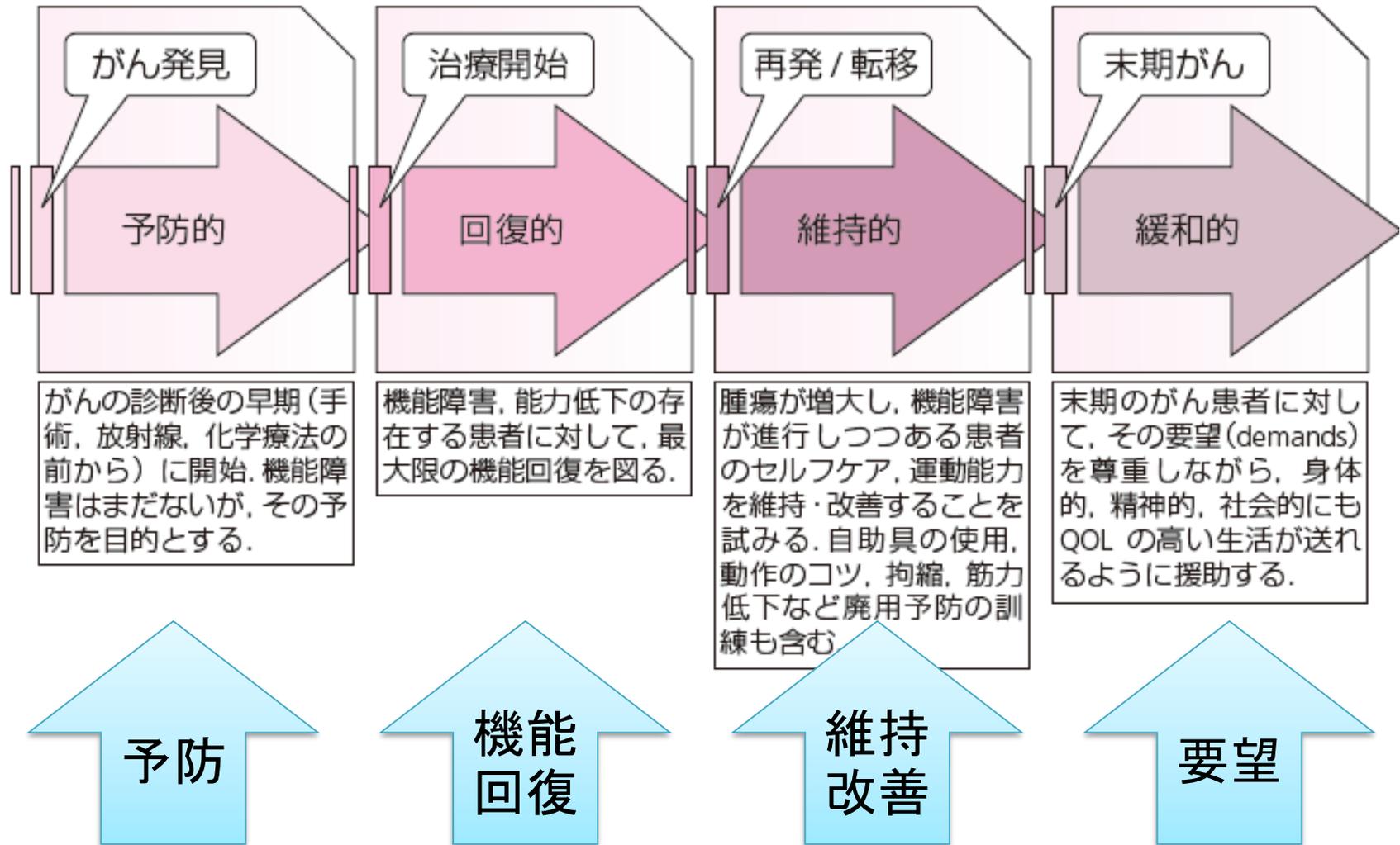
がんのリハビリテーションとは

がん患者の**生活機能**と**生活の質(QOL)**の改善を目的とする医療ケアであり、がんとその治療による制限を受けた中で、患者に**最大限**の身体的、社会的、心理的、職業的活動を**実現させる**こと 臨床腫瘍科医、リハビリテーション科医の指示により、医療ソーシャルワーカー、臨床心理士、理学療法士、がん専門看護師、作業療法士のコアメンバーと、その他がん患者特有の問題に対処する様々な専門職 からなるチームとして**提供**される。

(Fialka-Moser V, Crevenna R, Korpan M, Quittan M: Cancer rehabilitation: particularly with aspects on physical impairments. J Rehabil Med 2003;35:153-62.)



がんのリハビリの病期別の目的



(辻 哲也. がんのリハビリテーション. 2011; 140: 55-9 2) および Dietz JH. Rehabilitation oncology. 1981 3) より)

がんのリハビリの目標

リスク

全身状態

副作用

転倒

骨折など

ベネフィット

要望

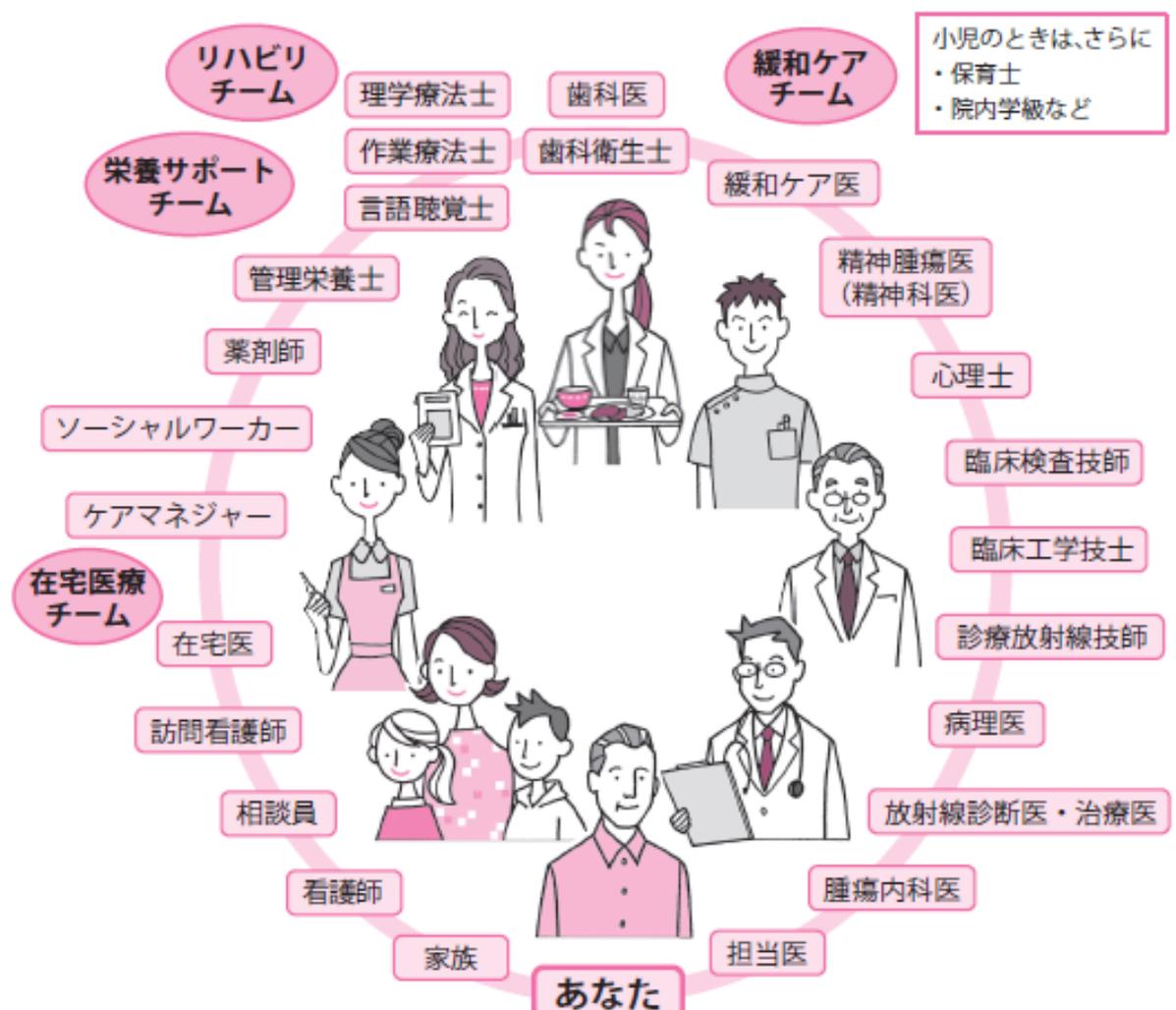
身体機能

日常生活動作

生活の質



がんに携わる“チーム医療”を知ろう



患者必携 がんになったら手にとるガイド 普及新版より抜粋



まとめ

- 1.生命予後が改善するにつれて、障害が**重複化**し、複数の診療科が関わっている。多くの合併症を抱えて生活している患者さんを対象とするため、幅広い**知識**が求められるようになりました。
- 2.がんの患者さんは日によって体調や精神状態が変化するため、**臨機応変**にリハビリを考えなければなりません。
- 3.生活機能及び生活の質の改善のため、患者さんの声に耳を**傾ける**こと、それらをチームで**共有**することがより一層求められます。

